

清水高原(きよみずこうげん)歳時記(長野県道完走編)

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

# 第3集

(長野県道1号線~508号線)

NO.15 県道の終点が槍ヶ岳・大天井岳(どこから?)

(長野県道327号走破)(長野県道279号走破)(長野県道326号走破)(長野県道495号走破)

NO.16 十石峠(国道299号線)を初めて越えました

(長野県道108号/群馬県道108号走破)

NO.17 国道418号線(県内分)の未走部分を含め走破しました

(長野県道446号走破)(長野県道447号走破)

NO.18 諏訪湖スマートインターの進行を見に行きました

(長野県道16号走破)(長野県道50号走破)(長野県道183号走破)

NO.19 中山道と国道19号・その1(塩尻宿~福島宿)

(長野県道304・305号走破)(長野県道257・258・259号走破)(長野県道267・461号走破)

NO.20 中山道と国道19号・その2(福島宿~中津川宿)

(長野県道261・264・265号走破)(長野県道/岐阜県道6・7号走破)

NO.21 小学校時代遊んだ小学校の遊び道

《長野県山形村》(やまがたむら) 2023.8.29

## 県道の終点が槍ヶ岳・大天井岳(どこから?) 澤田 繁 著

(長野県道 327 号走破)(長野県道 279 号走破)(長野県道 326 号走破)(長野県道 495 号走破)

県道の終点もしくは始点が槍ヶ岳頂上になっている県道として 3 路線もある。県道といっても車が通れる道路から登山道、自転車専用道もごく一部存在している。中には途中路線指定なし(路線がしめされていない)の県道もある。

県道 327 号線(槍ヶ岳矢村線)、2023.7.4 自宅のある清水高原の山を下りたところに県道 25 号線、これに沿って穂高有明のそば屋さんが多い通りを抜けた宮城の交差点が起点となりここから山道に向かう。1km ほど行くと左にラジオドラマ「鐘の鳴る丘」のモデルになった有明高原寮が見える。さらに 400m いくと大盛り〇〇のそば屋さん「くるまや」がある。若い時ここから数百m のところにある「魏石鬼八面王の岩」を見学に(今はそんな元気がない)。道も徐々に細くなって登りもカーブもきつくなる、中房温泉の少し手前の燕岳登山口前で泊客以外はストップ。県道はここから燕岳手前の燕山荘を経て大天井岳そして槍ヶ岳までの登山道で構成される。燕岳登山は中学校登山の定番でした、昭和 37or38 年(1962 年)に記憶断片ですが、中房温泉に泊まったこと、燕山荘に泊まったこと、槍ヶ岳が見えた事、御来光を見た事、下の有明で貸し切りバスが待っていて車道を歩いて下った事などを憶えている。その数年後女房も中学校登山で登りいろいろ思い出があるようだ。

県道 279 号線(槍ヶ岳上高地線)は、ほとんどが登山道で上高地がスタート、上高地は小学生の頃から何度か訪れています。軽くハイキングでは徳沢まで途中明神池(穂高神社奥宮)に寄ったりしていた。横尾から涸沢(キャンプ)を経て奥穂高に行く道と槍ヶ岳に行く道に分かれている。1969 年には高校の友人と奥穂から前穂までの縦走登山にいった、槍ヶ岳はこのあと 2.3 年たって、大学友人の早川君といった道で、二俣近くでテントを張って槍ヶ岳までの登山をした道です。

県道 326 号線(槍ヶ岳線)、2021.6.8 松本インターから安曇野インターで降りて高瀬川土手(オリンピック道路)を通り大町駅に、大町のメイン道路を通り大黒町交差点を左折、一中東交差点から 326 号線に入る。約 1km 走るとここから高瀬川の左岸に沿って走る、途中大町ダムの横を通り狭い谷



(高瀬溪谷)に入る。二つ目のダムの七倉ダムを通過し七倉山荘前に到着、これから先一般車は入れない情報があったのですがやはり規制されていました。ここでUターンして食事を出来るところを探しました、ついでに温泉をと「葛温泉かじか」をゲットしました。



この県道どうやって槍ヶ岳までいくのか不思議です、以降は予想の域は超えませんが、まずは高瀬ダムの世横までの隧道が伸びています、そのあと登山道で湯俣温泉に、ここからが全くの予想で湯俣岳・水晶小屋・三俣蓮華岳・双六岳・槍ヶ岳かな？

県道 495 号（豊科大天井線）、2023.8.29 自宅から県道 25 号線に、三郷小倉地区に入り、旧三郷村<sup>みさと</sup>の保養施設「室山荘」（現在は安曇野温泉ファインビュー室山）の横を通り、北小倉の交差点から県道 319 号線に入りました。北小倉地区は正月の伝統行事（正月の道祖神祭りは、《北小倉の御柱》）がある地区で、そこを通ると山に入る（ここから三郷スカイラインと呼んでいるのかな？）、標高 1200m 付近には県道 495 号との交点と思われる所に出るが、登りは三郷スカイラインを引き継ぐ形でいくが、下りは通行不能の道に見える。地図上では直線で 1 km 先には以前に県道 495 号線を国営アルプスあずみの公園から走って来て引き返した場所があるのだが、とにかく登り続けると舗装道路が切れると通行止めになった。ここから登山道が鍋冠山（松本から鍋底に見える）・大滝山・蝶ヶ岳・常念岳・大天井

岳に至る（登ったことはない）、少し引き返して展望台の建物に登り景色を眺めて下りました。

県道 319 号と 495 号の分岐点から地図上 1 km 先にある 495 号のつづきは 2021 年に県道 25 号から国営アルプスあずみの公園の横を通り、旧豊科町の「ほりでーゆ〜四季の郷」に向かう手前を左折して烏川に合流する沢沿いに登っていくと林道ぽくなった（これが多分地図上 1 km 先）ところで引き返した。

県道 495 号（豊科大天井岳線）の豊科部分は、2022.12.26 に光橋西交差点から国営アルプスあずみの公園まで走っています。国道 147 号線と重複区間を除くと市街地はなく、ところどころに民家がある 2 車線の道路でし



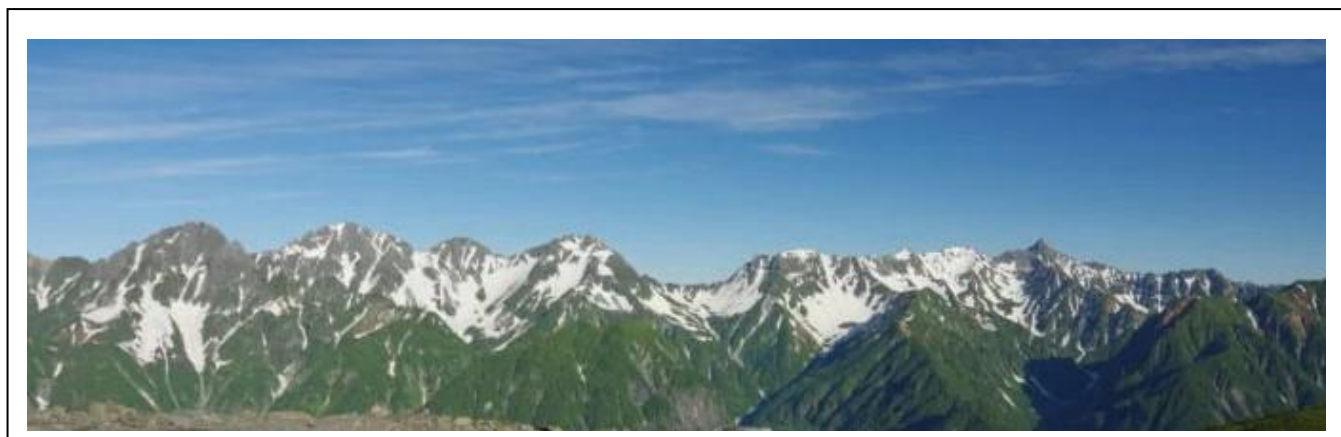
た。光橋西交差点から光橋東交差点は安曇野インターから 19 号線に出るルートの一部であるため、何度か通過した区間です。光橋は 2000 年に完成した比較的新しい橋で、犀川にかけられています。光橋上流 6 km のところで、梓川と奈良井川が合流して犀川になります。犀川は千曲川に合流、県境から信濃川となって日本海に流れています。槍ヶ岳や穂高などのアルプスを源流とした「梓川」は上高地・大正池・奈川渡ダム・島々などを通過して奈良井川と合流、奈良井川は木曾郡木祖村藪原にある鳥居峠が源流で、日本海と太平洋の分水嶺としても知られている。



この付近の犀川には白鳥などが飛来する。光橋付近にも飛来する場所があり、現在白鳥の観測などの場所がある。

国営アルプスあずみの公園は、堀金・穂高地区と大町・松川地区に分かれている大きな公園です。堀金・穂高地区へは、県道 495 号線を県道 25 号線との交点から 600m 先に駐車場への入口がある。園内を楽しむには体力が必要です。調べると 44ha くらいの広さ、1ha は 100m×100m ですのでこれは広い。ここはいろいろなイベントを企画してくれますので四季を通じて楽しめます。よく行くのは冬のイルミネーションです。

国営アルプスあずみの公園から県道 495 号線を 2 km くらいいくと県道 495 号は左に直進すると、須砂渡キャンプ場や「ほりでーゆ〜四季の郷」がある、さらに進むと三股駐車場に行く、私が 30 歳 (1978 年) 前後のときテニスチームの仲間と何度か蝶が岳に登った道になる。三股駐車場には国営アルプスあずみの公園から約 10 km で時間にして 30 分くらい、今は第一と第二があり第一には 60 台くらい無料でとめられる、その当時は登山口前まで車を乗り入れ(数台くらいのスペース)そこに止めて、スイカを沢に入れ登山を開始した、森林のなかがほとんどのコースで森林を抜けてから、お花畑があり、その先の頂上からの槍穂高の絶景がなんとも言えずリピータになった。コースタイム等を調べると標高差 1480m で 11.1 km、登り 4 時間半下り 3 時間半となっています、当時は若さがあり登ること 4 時間で頂上に、下りは 2 時間半から 3 時間で 1 時間くらい頂上において下山のペースでした。



(長野県道 108 号/群馬県道 108 号走破)

2023年8月29日、三郷スカイラインを登ったあと、県道319号線で梓橋駅まで、県道48号に乗り換えて梓川スマートインターチェンジで高速に乗りました。長野道から上信越道にのり群馬県方面に移動、途中佐久平スマートインターチェンジを見学して、2023年1月10日におとずれた「めんたいパーク群馬」にもう一度行こうと思い吉井インターチェンジを目指しました。こんにやくパーク横を通りすぎたころ、甘楽スマートインターチェンジ?、前来た時は

なかった? (後で調べたら5月25日に運用とのこと)、ラッキーと思い降りて約3km先の「めんたいパーク群馬」を往復しました。

今日目指すのは県道108号線の群馬側制覇(途中路線は通行不可)と長野県に戻ることです。

2023.8.1佐久穂インターから長野県側の県道108号線(下仁田佐久穂線)を目指しました。国道141号線に到着、千曲病院入口交差点から国道299線に入ります、約3kmいくと県道108号の始点である余地入口交差点に、山に向かって7km程いくと通行不可となり少し引き返して余地ダムを見学して帰途につきました。長野県側の標高は余地ダム付近は1200m・余地交差は780m・佐久穂町は740mとなっており約7kmで420m上がる傾斜である。



県道 108 号線の群馬県側を走るために下仁田インターで降り、国道 254 号線を上信電鉄線に沿って終点駅の下仁田駅前、群馬県道 108 号線は仲町交差点が起点となっている、この交差点からは群馬県道 45 号線と 93 号線も一緒になり上野村、臼田、佐久穂に向かう、道 2 で群馬・長野県道 93 号線走破を述べたので 93 号線と分岐したあと群馬県道 108 号線は熊倉川沿いに登る、分岐点の標高は 500m (下仁田駅は 260m)、約 1.5 km 登ると林道大上線との分岐点に更に 1 km 進むと道が車幅と同じくらいになり通行不可になってしまいました。バックで 50m なんとか切り返して方向転換して県道 108 号線の群馬県側は終了となった。

長野県側に戻るには、林道大上線か十石峠かと迷いながら県道 108 号線に戻ってきました。林道大上線の方に通行止めの看板を見つけて、午後 3 時を過ぎていたので時間的どうかと思いつつ十石峠に行こうと決心し、県道 93 号線の交点を経て群馬県道 45 号線との分岐点 (標高 380m) まで約 10.5 km を戻りました。群馬県道 45 号線 (下仁田上野線) は改良整備されており、湯ノ沢トンネル (全長 3.3 km) は 2004 年に完成している。国道 299 号線に到着して右折して十石峠に行こうとしたら、なんと災害復旧工事のための通行止めにあってしまいました、下仁田まで戻るにはつらいなあ・・・

気を取り直してもう一度通行止めの表示を見てみました、迂回路があるみたい、半分やけで迂回路に行くことにしました。国道 299 号線を上野村の方へ 500m、榎原郵便局 (標高 600m) 手前を右折し神流川に沿って約 1.5 km いくと林道矢弓沢線の迂回路に入りました。1 車線の舗装道路の登りが続きました。国道 299 号線 (標高 1260 m) に出ました、あいかわらず群馬県から長野県に行くには標高差が大きいことが実感できる。ここから 2.5 km くらい走ったところに十石峠 (標高 1351m) があつた。しばらく休憩して八千穂インターで高速に乗り途中娘に「めんたいこ」を届けて帰宅した。



十石とは、1石は米 150kg で1俵は 60kg (400 合の玄米)、十石峠は佐久地方から上州西部の山間に信州から米・味噌・醤油などが上州からは炭・紙が運ばれた道。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

(長野県道 446 号走破) (長野県道 447 号走破)

長野県の南の県境に近いところを、東から西に向かって走っている国道 418 号線がある。起点は福井県大野市神明町(上神明交差点・国道 157 号上・国道 476 号起点)から終点は長野県飯田市南信濃和田(国道 152 号交点)となっている。全線を通しては、通行できないところあり、酷道ありとの事。長野県内はとにかく走れそうなので走って見ました。



遠山郷の和田宿(秋葉街道)を通過すると、国道 418 号の終点である国道 152 号との交点の交差点に、道は遠山川に沿っていて途中停車して赤いつり橋の宮の前橋で記念撮影、清水トンネルの中で現在は飯田市の 2005 年以前は南信濃村から天龍村に入る、ここから道は狭くなり(県道 1 号線と重複)天竜川に沿って南下した。途中天龍村役場付近まで行って(崖を下るイメージ)戻る、飯田線平岡駅を過ぎ天竜川橋を渡り対岸に渡り 700m 程行ったところにトンネルが現れました。このトンネル 2023

年 4 月 28 日に開通したばかりの福島トンネルで、令和 2 年の的場一早木戸間の大規模崩落により、長いこと国道 418 号はこの間不通(迂回路は狭い村道)でしたのが解消されました。トンネルを通過した後も 1 車線が多い路線が続きます。

早木戸川沿い(谷に近い)に行くと「おきよめの湯」でなか食べようと思いましたが休みでした。ここから 400m いくと県道 446 号線との分岐点に、以前(2023.1.31)に「道の駅千石平」から国道 418 号線でここまで来た。そして県道 446 号線(大河内中川原線)を走り、終点近く「大河内森林



公園・キャンプ場」横を通り、ちょっと愛知県に出て県道 74 号線に到着した、県道 446 号完走。

県道 446 号線の分岐点からは、前来た時と逆向きな走行となりほとんど初めての道になりました。国道 151 号線につくまで 1 車線が多い路線が続きました。分岐点から国道 151 号線の間(約分岐点か

ら3km)のところで天龍村から阿南町(新野)に入りました。

国道151号線と重複区間は300mくらいで分岐点に、ここに道の駅「信州新野千石平」があり休憩タイム。新野の盆踊りはよく長野県のテレビニュースになる、国の重要無形民俗文化財(ユネスコ文化遺産にも)に登録されている、調べて見ると重要無形民俗文化財は、国全体では2023年現在329件あり、長野県は10件、飯田市南信濃/上村「遠山の霜月祭」・天龍村「天龍村の霜月神楽」・阿南町新野「新野盆踊り」「雪祭」・阿南町和合「和合の念仏踊り」と半分がこの地域にある。夏の行事の盆踊り、今年初めて「おわら風の盆」のテレビ中継を見て、踊り方・曲・踊る場所・演奏形態などかなり地域によって違う事がわかり興味が湧きました。隣接県では郡上八幡「郡上踊り」も徹夜で踊るが有名だがどうも徹夜はめずらしくなさそう新野の盆踊りも徹夜、「阿波踊り」も盆踊りと聞いてあーそうか。

そばとていざなすの焼きナスを始めて食べました。「ていざなす」は天龍村神沢で明治時代に田井澤さんが栽培を始めた大きく長いナスで、この道の駅でも販売されていました。同様(大きくて長い)なナスの「新野ナス」を買いました。

国道418号線はさらに西に向かいます、ここからは2車線の区間になり売木峠から売木村に入る。この峠は平成18年にトンネルが完成しその後平成24年までに売木バイパスが整備されたので、道の駅新野千石平から売木村の中心地まで数分でいった。

2021.11.16 県道46号線で売木村に、県道447号は売木村松葉(国道418号交点)から阿南町新野大平山(国道151号交点)まで、ここを走って長野県74号・愛知県県道74号を走り稲武町にいきました。県道447号走破。

売木村から平谷村までも2車線区間で約20分で国道153号線と交差する。

平谷村から恵那市上矢作町までは、初めての道となる。平谷川沿いの1車線の道で数km走ると長野県から岐阜県に入る。平谷川も上村川に合流しさらに川沿いだが途中1km程の達原トンネル



ルを抜け達原溪谷の横をひたすら下った。恵那市上矢作町に到着した、街道らしい通りもあったが時間なく素通りした。

岐阜県の418号はこの後国道257号と重複して、岩村一色交差点で分岐して山岡・明智方面に向かう。ここで418号線と別れ恵那ICから帰宅した。



## 諏訪湖スマートインターの進行を見に行きました

澤田 繁 著

(長野県道 16 号走破) (長野県道 50 号走破) (長野県道 183 号走破)

今日はお出遅れたので、午後 3 時過ぎ松本インターに乗り南方面に向かいました。ふと、来年の春完成予定の諏訪湖スマートインターの進捗状況を見に行こうと思い岡谷 JCT を左折し諏訪湖 SA に寄りました。見渡しても路線が分からない状態で SA から本線に向かいました、ここでは工事していましたが路線は相変わらず不明。

家に帰り調べて見ました。新設の県道(将来は県道 50 号線になると思われる)を作るそれにスマートインターの路線を引付ける(右図)、大規模過ぎて見た目では分か



らないはずでした。

諏訪インターで降りて、左折して飯島交差点を左折して、諏訪大社上社本宮に行く事にしました。2021.4.6 茅野方面から県道 16 号を走り東参道の鳥居を通り諏訪大社には寄らず、神宮交差点そし

て飯島交差点・国道 20 号の交点・四賀桑原交差点までの県道 183 号(神宮寺諏訪線)は走破している。

いつも素通りしていた諏訪大社上社本宮に立ち寄りおまいりしました。境内では奉納相撲の準備をしていました。上社の本宮も前宮も県道 16 号線(岡谷茅野線)にあり、岡谷からのバイパスも本宮のそばまで伸びてきた。

県道 16 号は 2020.6.4 に完走しており、その後何度か利用している路線です。今回は本宮から県道 16 号線を岡谷に向け

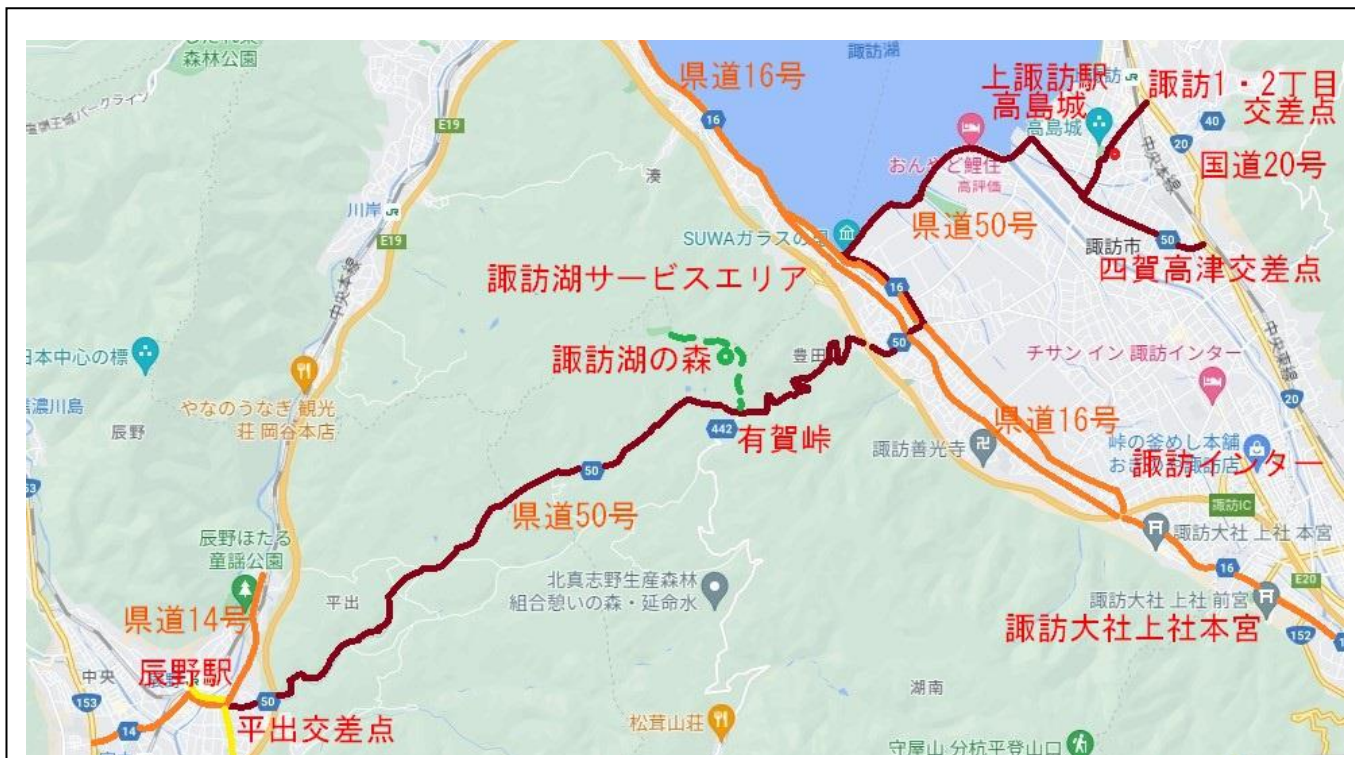


て走り諏訪湖スマートインターの工事状況が見ればいいな！、県道 50 号線付近・諏訪湖 SA の下・小坂信号付近と進みましたがなにもなく、小坂交差点から 200m程のところスマートインターから来て県道 16 号と交わる路線の工事をしているところに行きつきました。この日は釜口水門の横を通り岡谷市内を抜け岡谷インターから帰宅しました。

県道 16 号線は岡谷市県道 14 号線との交点本町交差点から茅野市宮川国道 20 号の中河原交差点までの線で、松本から茅野方面に行くときは湖の北側の国道 20 号線よりも湖の南側の県道 16 号線をよく利用していた。塩尻峠を越えて岡谷インター西の交差点を右折し本町交差点に出る、岡谷市街地の道路は結構斜めが多く方向感覚がないと難しい道です。天竜川を越えると湖岸道路に出る、この湖岸道路は岡谷側から 16 号線のバイパスとして徐々に工事が進み、今では諏訪湖を過ぎ高速道路と交わるところまで伸びている。



諏訪湖スマートインター新設に伴い、県道 50 号線の延伸と思われる県道が建設されている。県道 50 号線（諏訪辰野線）は諏訪駅近くの諏訪 1・2 丁目交差点（四賀高津交差点からも）から高島城まで一方通行の道路から始まる。2020.12.15 有賀峠を越え、途中峠から寄り道して諏訪湖の森（諏訪湖の展望がいいところ）にいった、かつてはテニスコートが多くあり、実業団の全国大会をエプソンと県庁のテニス部員で運営したところであつたが、今はやっていない。終点の辰野平出交差点まではややなだらかな下りでした。



# 清水高原(きよみずこうげん)歳時記(長野県道完走編)

NO 道19

《長野県山形村》(やまがたむら) 2023.9.5

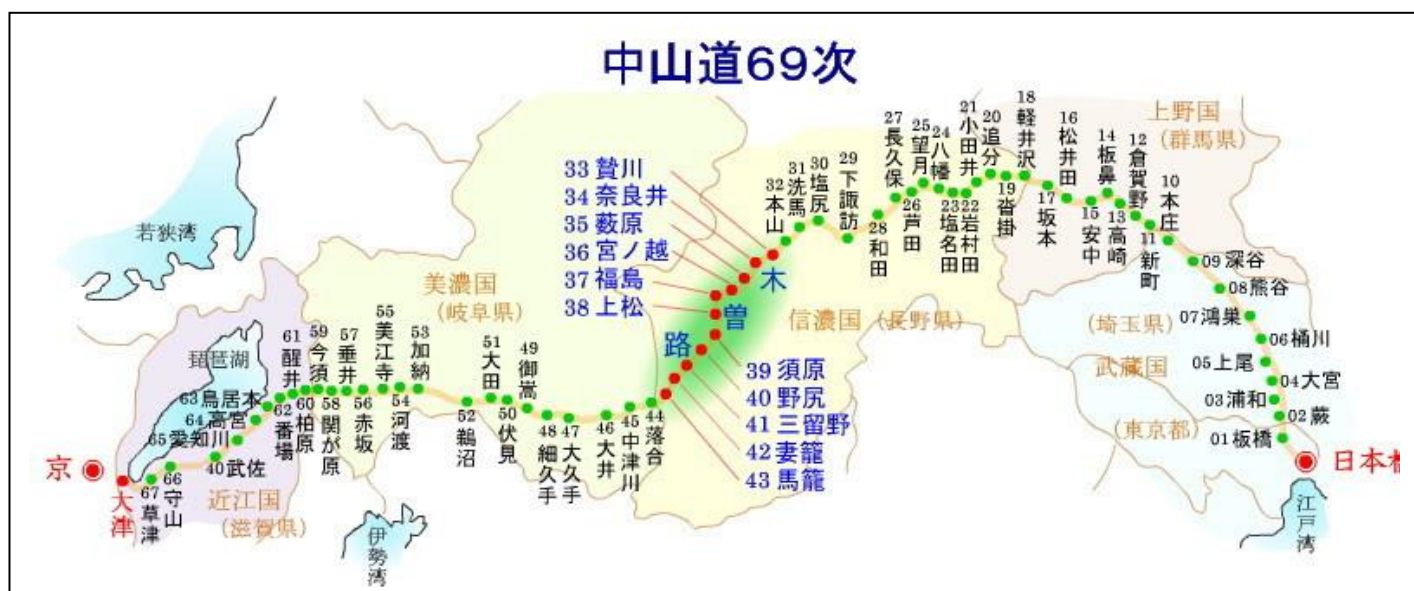
## 中山道と国道19号・その1(塩尻宿~福島宿)

澤田 繁 著

(長野県道304・305号走破)(長野県道257・258・259号走破)(長野県道267・461号走破)

2023.9.5 中央道を南下し恵那峡SAで休憩、中山道は中津川落合では19号線沿いに落合宿(44)・中津川宿(45)・恵那駅近くの大井宿(46)、恵那市武並を過ぎたら国道19号線を外れた道に移る。恵那インターで降りて中山道の一部を走ろうと思ったが前から気になっていた太田宿に行くことにした。太田宿(51)までは、大湫宿(47)・細久手宿(48)・御嶽宿(49)・伏見宿(50)がある。可児御嵩インターで降りて国道21号線を太田宿に向けて進み木曾川を渡る手前から中山道を見つけて太田宿にたどり着きました。太田宿中山道会館を見学し、千両箱の細長いことと、三大難所の太田の渡し(残りは碓氷峠と木曾の架け橋)の場所が印象に残ったかな。帰りは関インターから高山を通り安房峠を越えて帰って来ました。

中山道は江戸から京都までの69次(宿場)の街道で距離は526.3km(135里34町余)塚に及ぶ、江戸から1里(3.927km)ごとに塚が設けられていた、塚は土盛りしたところに榎や松を植えた。



塩尻宿へは街道が集まっていた。三河から伊那平を通っての三州街道、高遠藩・諏訪藩が米を運んだ5千石街道、洗馬から分岐した善光寺街道、千国街道も塩尻まで来ていた。中山道は江戸から群馬県・佐久地方・下諏訪を通り塩尻峠を越えて、日本橋から58里にある柿沢一里塚(跡)に、この付近から塩尻宿が始まる。塩尻宿は国道20号線が走っていたがバイパスが出来たので国道153号線が19号線までの交点まで伸びた形になった。

2020.8.24、県道305号(床尾大門線)



を床尾(中仙道一里塚交差点)から下大門交差点方向に走った。途中、中山道の両脇(ツイン)に松がある一里塚である。一里塚の近くには平出遺跡があり縄文時代から平安時代までの人々の暮らしがわかる貴重な遺跡となっている。小学校の学習で訪れた時は、竪穴式住居(地面の下に穴を掘ってそこに柱を建てて作る)一つしかなかったが現在はかなり広い敷地に十数個の竪穴式住居などがたっている。国道19号線と中山道が初めて中仙道一里塚交差点で出逢いました。



洗馬宿(31)・本山宿(32)とも国道19号線のバイパスが出来た(多分)ので、国道とは少し離れたところにある。洗馬宿の北側には善光寺街道との道分がある。また南側には牧野一里塚跡(日本橋から60里)がある。

2020.8.4と8.24、県道304号線(本山床尾線)は国道19号線の牧野交差点から洗馬宿を通り平出歴史公園交差点までの区間路線です。木曾方面に行く場合に善光寺街道から牧野交差点まで完走した日以外も多く走っていますが特に注意点は中央西線のガード下のところは道幅がせまくすれ違いが難しいので信号無しの交互通行が必要となります。同様に本山宿にも国道19号線から別れ市道を通ってまた19号線に戻ります。

1843年の「中山道宿村大概帳」によれば洗馬宿の家数は163軒(本陣1・脇本陣1・旅籠29)、人口661人、伝馬は50人50疋。本山宿の家数は117軒(本陣1・脇本陣1・旅籠34)、人口592人。

初期の中山道は岡谷までは今のルートではなく境川付近から山道に入り小野宿から岡谷の天竜川付近に出るルートであったが1614年に現在のルートになった。

境川は松本藩と尾張藩の境となっており「境橋」の架け替え、修復は両藩公平に負担をしてきた。またここから木曾路となるとあるが塩尻から名古屋方面は一本道なので、余りどこがとか気にしたことがない。桜沢トンネル(2.1km)が2021年11月28日に開通したため川沿いを通らず贄川に行けるようになり、19号線の距離も短くなった気がする。桜沢トンネルを抜け300m先、右道20m山側には中山道が通っておりそこに日本橋から62里の若神子一里塚跡がある。国道19号線の横にある贄川駅から300mいくと贄川宿に入る市道がある。

贄川宿(33)は、車で通り抜けをしていましたが宿場の雰囲気は感じられました。福島の関所の分室みたいな贄川関所が設けられていた。家数は124軒(本陣1・脇本陣1・旅籠25)、人口545人。

国道19号線の桃岡交差点手前40m左10m(国道から見えるかも知れない場所)に、押込一里塚跡がある、日本橋から63里。

2021.1.14 県道257号線(木曾平沢停車場線)、道の駅木曾ならかわの手前の平沢北交差点から平沢の町並みに入りました。漆器の町でもあるが、今や高級品の感が強く漆器店は素通りしました。奈良井駅で県



道は終わりその後市道を通り国道 19 号に戻りました。

2022.3.22 県道 258 号線(奈良井停車場線)、国道 19 号線と県道 258 号線の交点の三差路は奈良井駅手前 700m にあるが気をつけないと通り過ぎてしまう、ここから奈良井駅までの路線である。奈良井宿には以前「道の駅奈良井木曾の大橋」(ここは違う国道 19 号入口)に入り、歩いて奈良井宿の古い町並みを見ました。

鳥居峠は、奈良井川(日本海)と木曾川(太平洋)との分水嶺、中山道はこの峠を越えていった、茶屋が 3 軒あった、手前には鳥居峠一里塚があり日本橋から 65 里の距離である。

国道 19 号線の現在の鳥居トンネルは 1978 年(昭和 53 年)のもので、トンネル開通前(県道 493 号の 1 部が旧 19 号線みたい)には車で鳥居峠を越えた記憶はない。またトンネル入口手前から権平トンネル(2006 年開通)を越えて伊那に行けるようになった。

藪原宿は、県道 26 号線と中央西線の間中山道が通



手前 200m の吉田橋を渡って駐車スペースに車を止め戻る形で橋を渡って 19 号線沿いに自生している福寿草を見にいきました。

2021.1.19 県道 259 号線(宮ノ越停車場線)、巴淵交差点を右折し宮ノ越駅まで、この日義は木曾義仲と巴御前の地

っていて、その「藪原宿にぎわい広場」付近に車を止めて、町並みを見たり、いろいろな菓子を売っている北原菓子店に寄ったりした。「お六櫛」が有名です。家数は 266 軒(本陣 1・脇本陣 1・蔵 10)、人口 1493 人。

2023.3.14 藪原交差点から 1.1 km 行ったところで左側に橋を架けるような工事が始まっていた。ようやく工事のサイトを見つけたところ、藪原改良工事でほとんどがトンネル化になっていました。19 号線でも災害リスクが多いところのようだ。下吉田一里塚跡(日本橋から 67 里)



でもあり、義仲公園や義仲館を見に行った。宮ノ越駅からは県道 267 号線（オコシ宮ノ越停車場線）で中山道を走る。すぐに宮ノ越宿が始まりややせまい道を通り過ぎる。県道はつづき樋口一里塚跡を通り、今は表示がある中山道中間点（江戸・京から 67 里 38 町）を通り 19 号線の原野交差点の 150m 先の日義小沢の三差路交差点に出る。宮ノ越宿の家数は 137 軒（本陣 1・脇本陣 1・旅籠<sup>はたご</sup>21）、人口 585 人。出尻（江戸から 69 里）を通過した。

2022.3.22 国道 19 号線の福島トンネル手前の関町交差点から旧国道に入り木曾福島を散策しました。最初に訪れた福島関所は道の崖上にあり息を切らせながら登り門の前で写真を撮りました。福島関所は四大関所（新居・箱根・碓氷・福島）の一つでかなり重要なところでした。その関所を守る役目の山村代官屋敷に寄り木曾福島駅前で食事。駅から中山道部分の県道 269 号線を走り牛越小路入口を左折し、福島宿上の段地区（江



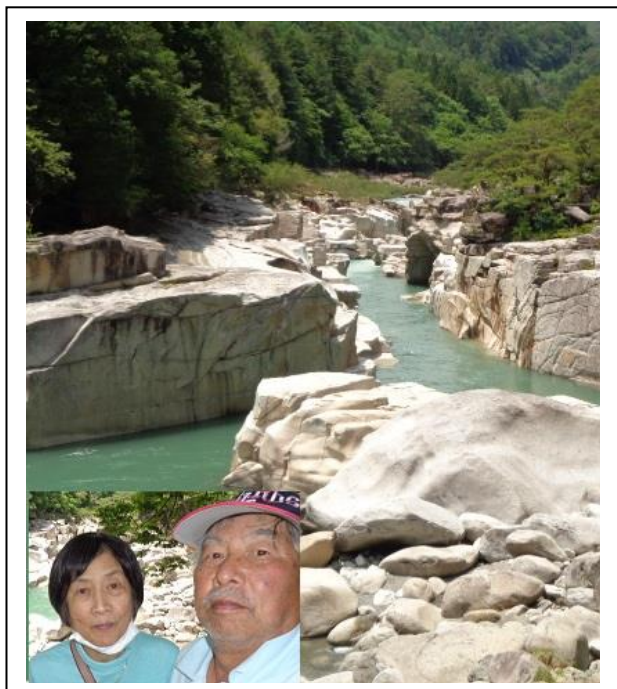
戸小路エリア) を通り高札場を見て細い坂道を下り七笑酒造横を通り、田口菓子店で一休みをした。福島宿の家数は 158 軒（本陣 1・脇本陣 1・旅籠<sup>はたご</sup>14）、人口 972 人。

2021.1.14 県道 461 号線（鳥居本町線）、田口菓子店から 50m 先の木曾川に架かる行人橋が起点、福島トンネルが完成・福島バイパスが完成した時期は不明だが、トンネルが出来る前に、昔こちらの国道を通った記憶がある。現県道 461 号線は行人橋の上からは木曾川にせり出したように家が立ち並んでいる光景が見られました。「崖家造り」というそうです。木曾谷のような狭い土地を有効に使おうという先人達の暮らしの知恵から生まれた光景ということのようです。橋を渡ると旧国道とともに南下しました。この間中山道は中央西線との間にあり、途中塩渕の一里塚跡（江戸から 70 里）が存在する。県道はしばらくして鳥居の交差点で国道 19 号線と合流した。

木曾福島を過ぎて上松に向かう途中に元橋の交差点がある。ここから王滝村・御岳・開田高原に向かう県道が何本かある。交差点を過ぎて800mのところの道の駅木曾福島「木曾市場」(食事・売店・トイレ)はよく立ち寄る。

かけはし大橋の手前に旧19号線(中山道)に行く三差路がある前はこの旧19号線を通っていたのだがいつのまにか上松を通らず寝覚めの床の手前まで行ってしまっていた。上松バイパスは平成10年(1998年)12月に開通しトンネル区間が多い。栈改良バイパス工事(かけはし大橋~あげまつ大橋)は、2009年に国道路上に岩が落ちて通行止めが起きたことから進められた、平成26年(2014年)3月に開通した。

木曾の棧(かけはし)は、木曾川にかかる橋とばかり思っていた。栈改良バイパスから降りる道があり、木曾川のせまくなったところに架かっている橋がそうだと思いますでしたが、中山道を地図で追ってみたところ2023.9.5に訪れた太田宿の「太田の渡し」で木曾川を右岸から左岸に渡ってから上松宿までは木曾川を渡らず左岸沿いを来ていることと、福島宿からも左岸沿いに南下している、これは不自然と思って調べて見ると、木曾路には通行困難な断崖がいくつかあった、そのため断崖に差し込んだ丸太の上にいたなどをあてて通り道とした<sup>まんどろ</sup>棧道を設けた、「木曾の棧」の場所最も難所であったと思われる。



上松第一トンネルを抜けたところに県道473号線(上松御岳線)の始点がありここから市街地に行くが上松宿の入口をかすめて御岳に向かうため、上松宿は立ち寄った事がない。上松宿は日本橋から38番目の宿場で家数は362軒(本陣1・脇本陣1・<sup>はたご</sup>旅籠35)、人口2482人。

2023.6.13 中津川市付知町の岐阜県道486号/長野県道486号の岐阜県側を訪れる途中で、寝覚めの床に何十年ぶりかで行って見ました。川に向かって急な坂を降りていき、河原に到着。以前は「ねぞめの床」のところまで石の河原を歩いていったのですが、今回は河原前で写真を撮って戻りました(登りはきつかった)。

明治22年以前は萩原村だった上松町萩原地区を南下する、萩原の一里塚跡(江戸から73里)は19号線の近くではあるが脇道(中山道)に入り10mくらいのところにある。倉本の駅を過ぎ萩原地区の境近くには倉本一里塚跡が

進行方向(名古屋方面)右にある。ここを過ぎたら大桑村須原地区に入る。

2022.11.8 御岳ロープウェイに行き、木曾ダムから木曾川の右岸(下流に向かって右)を通り、大桑村の和村

橋で左岸に移り 19 号線須原交差点を左折（松本方面に戻る）して県道 265 号線（須原大桑停車場線）の入口を探しました。500m くらい 19 号線を走ったところが入口で右折して須原宿に入りました。入ってすぐ須原一里塚跡（江戸から 75 里）があり、300m 程で本陣跡があり須原宿に到着しました。町並みは結構残っています。また水舟といって木をくり抜いて水槽がいくつか目につきました。西尾酒造も宿場内にあり「木曾のかけはし」の生酒を買いました。家数は 104 軒（本陣 1・脇本陣 1・旅籠 24）、人口 478 人。

しばらく  
 県道 265 号線は中山道とほぼ一致した道を走る。大桑村の学校が丘の上に見えるところで中山道と分か



れ一旦国道に出て 400m 程いき分岐して、ここからまた県道 265 号線が単独で始まる。大桑の駅を右目で見

てすぐ国道に出た。県道 265 号走破となる。

道の駅大桑もよく立ち寄る、特におみやげ処みちくさはいろいろ売っていて、よく買う。





野尻宿 (2021.1.19 に立ち寄る) にもう一度いくことにしてまずは野尻駅に、この駅は中山道の木曾路入口 (馬籠宿) から歩く人が終着としてよく利用する駅の様です。ここから県道 261 号線 (野尻停車場線) がほぼ中山道と同じ路線を走る。40 番目の野尻宿の町並みを過ぎ下在郷一里塚跡を通り阿寺溪谷入口交差点で国道 19 号線に出る (県道 261 号線走破)。野尻宿は家数は 108 軒(本陣 1・脇本陣 1・旅籠 19)、人口 986 人。

十二兼一里塚碑は国道 19 号線の左側(名古屋方面に向かい)にあります。さらに進むと金知屋地区にさらに 500m いくと県道



264 号線 (南木曾停車場線) に入るところがあり、それなりに進むと三留野宿に出る、さらに行くとも南木曾駅手前 600m で中山道と分かれて中央西線の上を横切って南木曾駅に到達した。県道 264 号走破。三留野宿は家数は 77 軒(本陣 1・脇本陣 1・旅籠 32)、人口 594 人。

南木曾駅の名称は、私の小学校のときには今とは駅名が違う気がして調べてみました。町名から調べて見ると南木曾町は、昭和 36 年 (1961 年) に読書村・田立村・吾妻村が合併して発足した町で、駅名も昭和 43 年「三留野駅」から「南木曾駅」に変更された。余談だが恩師の初任が読書小学校と聞いていたので調べて見ると、平成 17 年読書・田立・蘭小学校が統合され南木曾小学校になったことがわかりました。

南木曾駅から中山道に戻って、妻籠宿を目指しました。この間道が入りこんでいて、塚が街道の両脇に一つ一つ残っている上久保一里塚を見過ごしました。少し大回りして妻籠宿に到達することが出来、復元された本陣も見ることが出来ました。妻籠宿の家数は 31 軒(本陣 1・脇本陣 1・旅籠 31)、人口 418 人。この日 (2022.11.8) は須原宿から妻籠宿まで走り、国道 256 号線で清内路トンネル越えて飯田山本インターから帰りました。

国道 19 号線は、南木曾町妻籠交差点で中山道とは離れ、国道 256 号線と重複して弥栄橋交差点まで、分岐して中津川方面に向かう。

2020.9.15 中津川周辺を走った。中津川インターで降り国道 19 号線を松本方面に恵那富堂で栗きんとんを買い沖田交差点で岐阜県道/長野県道 7 号線 (中津川南木曾線) に入りました。日本橋から 44 番目の落合宿が入り口の傍にある (立ち寄ってない)、ここから坂が始まり坂の中腹の馬籠宿を迂回して上の駐車場に車を停めて 43 番目の馬籠宿に行きました。藤村記念館を見学、古い町並みで写真 (高札場) を撮ったり、五平餅を



食べたりしました。馬籠宿の家数は 69 軒(本陣 1・脇本陣 1・旅籠 18)、人口 717 人。その後の県道 7 号線は、ほぼ中山道と平行していて、馬籠峠を越えて国道 256 号線と交わり終了する(県道 7 号線走破)。

256 号線を南木曾妻籠宿交差点の方に、国道 19 号線に合流し南木曾大橋を渡り木曾川の右岸に、新しずもトンネルと賤母大橋(昭和 62 年 12 月完成)の間に長野県道/岐阜県道 6 号線(中津川田立線)の始点がある。6 号線に入ると、中央西線で長野県最後の駅である田立駅の横を通り長野県と岐阜県の県境を

通過し(長野県道 6 号線長野県内走破)中津川市坂下に入る。坂下駅の東側を通り国道 256 号線と交わり国道 256 号を西に進み岐阜県道 3 号線に入る。北上をしていき「道の駅五木のやかた・かわうえ」に駐車して休憩。

3 号線をしばらく走り、二ツ森展望ラインに入りました。景色よく楽しんで走りました。国道 257 号線の野沢交差点を直進して「麻の葉学園」の横を通り岐阜県道-408 号線に出ました。ここから山あいを進みました。蛭川地区を抜け、蛭川峠を越え恵



那市中野方町に、岐阜県道 68 号・県道 412 号線をつなぎ国道 418 号(道 17 記載始点は長野県遠山郷)に、国道 418 号はこの先しばらく途絶えているが長野県の始点まではつながっている。

国道 418 号線を走る。中央道と国道 19 号線の下を通過し、恵南ハクウンボク? 街道とも書いてある国道 418 号線を国道 363 号線と交わるところまで進む。ここから 363 号と 418 号の重複区間となり、418 号は岩村で分岐し上矢作町に向かう。

岩村の古い町並みを車で見て、国道 363 号から国道 19 号、中津川インターにのってその日は帰宅しました。歳時記ホームはこちら

## 小学校時代遊んだ小学校の遊び道

澤田 繁 著

中学生になって部活も始まり、通学にも時間を要したこともあり、小学生までの幼少期の様に毎日遊んだ記憶はない。

学校が休みの時の小学生の行動は思い出しても広範囲(学区の同級生の家・松本駅・釣り池・ひよこ・山・いなご・どじょう・・・)であったが、ここでは日常茶飯事に遊んでいたところを思い出してみました。

実家の近所では、私が下の歳で兄貴にいつもついて遊びをした。最初は家の前で出来るビー玉遊びとメンコでした。どちらも奪い合いゲームでしたので真剣にやった記憶がある。あとは駒とか秘密の基地づくり、冬は実家の前が薄川の土手の下なので竹スキー・自前のそり・スキー等を坂の傾斜を利用して遊んだ。徐々に上の人がいなくなり家のまわりよりかは小学校で遊ぶようになりました。

糸毬野球は学校のグラウンドでよくやりました。ボールは親に作ってもらった物から売っていた物を使い時には硬式のテニスボールも登場したこともあった。ほとんどが三角ベースでやっていた。その遊び集団は冬になると薄川の堤防に生えた木からホッケー用(下が曲がっている)に作り、雪の上でもボール遊びをしていた。学校は遊びの宝庫(ブランコ・鉄棒・砂場・滑り台・・・)でもあり子供にとって冒険の場でもあった。グラウンドだけで遊んでいたのが校舎の周りをまわる遊びも見つけた、その一つがコマでの追いかっこであった。コマを瓶のふたに乗せ追いかける遊びで、コマに巻き付けたひもを引き、空中に投げ上げ、出来るだけ小さなふたに乗せる技術がカギのゲームで、このゲームで校内中を散策(コマが回っている間しか移動出来ないルール)しながら良く遊んだ。現在は校舎を全面的に立て替えたので遊んだエリアは形に残っていない。グラウンドの部分も在学中にプール・築山・河童池が出来て変わっていったが、遊ぶ場所は確保されていた(まだまだいろいろ遊びはあったが正確には思い出せない)。

空に向かったの遊びは、私にとって「好奇心が膨らむ遊び」というか「どんどん深みにはまっていく遊び」というか表現しづらい遊びであった。凧揚げと模型飛行機遊びがそれである。凧揚げは正月にやっていて、より高く揚げることにこだわり、タコ糸買っては継ぎ足し、買っては継ぎ足しをしていくが、最後は切れてしまうことで諦める事が出来た遊びだが、模型飛行機についてかなり固執した。最初は模型飛行機セットについている動力ゴムを手で巻いて飛ばしていたのが、徐々にエスカレートしていき小遣いはすべてつぎ込んで、機種もいろいろ試し、動力ゴムも増やしていった。飛んでいる時間が増えいつも遊んでいる学校のグラウンドでは周りの木の枝にかかる危険が出てきたので、ちょっと歩くが信大文理学部のグラウンド(源池小学校の庭に比べ3倍以上広い)に出向くことが多くなった。大学のグラウンドまでは、南西角の官舎の北に入る門があり、一番南の校舎の横を抜け、右側に多分プールがあったところを抜けていった道であった。当時私にとって高額なゴム巻き機まで買ってどこまでゴムを増やせるかに固執したと思います。だいぶ長い期間遊んでいたが、模型飛行機の限界を知ったのかまたはやりきって満足したのかわからないが高かった熱はさめた。

